

CASBEE[®]新潟 | 評価結果 |



■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2008年版
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.2)

1. 建物概要

建物名称 建設地 用途地域 建物用途 竣工年 敷地面積 建築面積 延床面積 階数 構造 評価の段階 評価の実施日	(仮称)白山やすらぎ福祉施設 中央区 川岸町2丁目1番19号、20号 第二種住居地域 病院, 2012年9月 予定 3,818.68 m ² 2,284.64 m ² 5,771.43 m ² 地上3F RC造 実施設計段階評価 2012年1月20日	
---	---	--

2. CASBEE新潟の評価結果

	A	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{55}{35} = 1.5$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		

3. 新潟市の重点項目の評価

重点項目	平均スコア	評価	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 誰もがずっと安心して生活するために	3.2		バリアフリー	3.0
			維持管理	3.5
			更新性	3.1
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産、思い出を守るために	3.4		耐震・免震	3.8
			信頼性	3.0
3. 大雨への取組み 大雨につよいまちづくりのために	3.0		雨水排水負荷低減	3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	3.5		建物の熱負荷抑制	4.0
			自然エネルギー利用	3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	3.7		節水	3.0
			リサイクル材の使用	5.0
			再利用可能性向上	3.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな田園空間を次世代に引き継ぐために	2.5		生物環境の保全・創出	2.0
			敷地内温熱環境の向上	3.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の魅力を伝承・創造していくために	3.5		まちなみ・景観への配慮	3.0
			地域性への配慮、快適性の向上	4.0

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

- 長寿命化: 老人福祉施設として要求されるバリアフリー・メンテナンス・更新性を確保するため、総合的な視点から設計。
- 地震への備え: 重要度係数を1.25として耐震性を確保。
- 大雨への取組み: 駐車場を透水性舗装とし、また可能な限り植栽帯を設け雨水の浸透性に配慮。
- 自然エネルギー: 居室開口部は採光・通風に十分な面積を確保。庇・バルコニーを設け日射調整機能を確保。
- 資源循環への取組み: リサイクル建材を採用する等配慮。
- 水と緑を活かす: 前面道路沿いに植栽帯を設け、周辺環境との調和に配慮。
- 新潟らしさ: 外壁を褐色タイル貼とする等、信濃川から白山公園へ連なる市街地の都市景観に配慮。

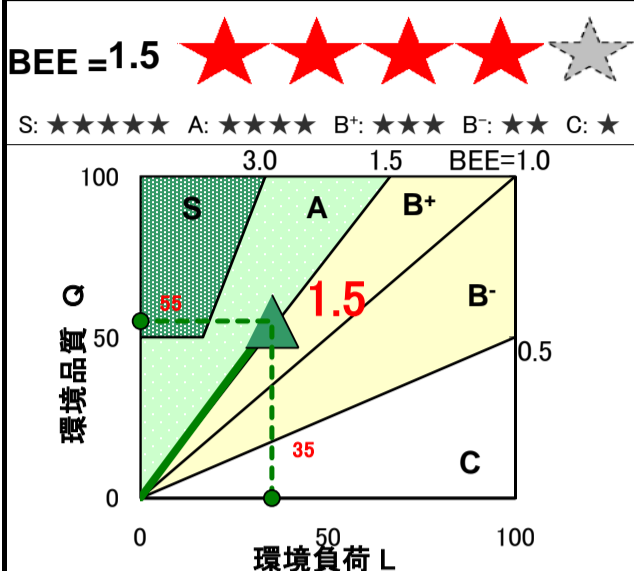
■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

CASBEE®新潟

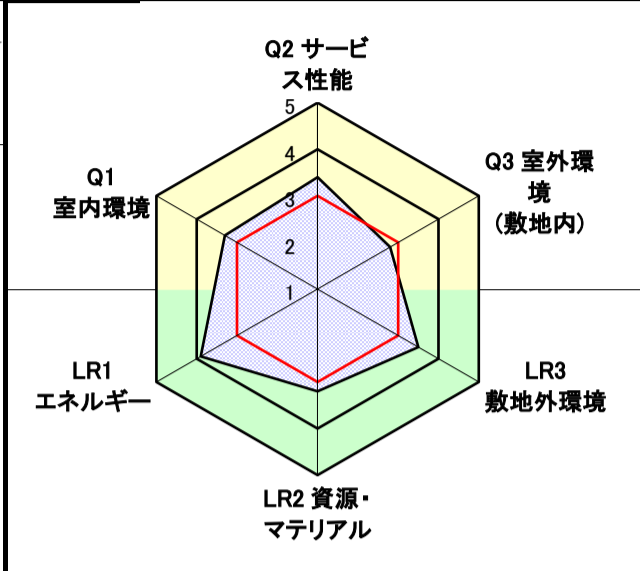
評価結果内訳

■使用評価マニュアル：CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築（簡易版）2008年版 使用評価ソフト：CASBEE新潟(v.1.2)

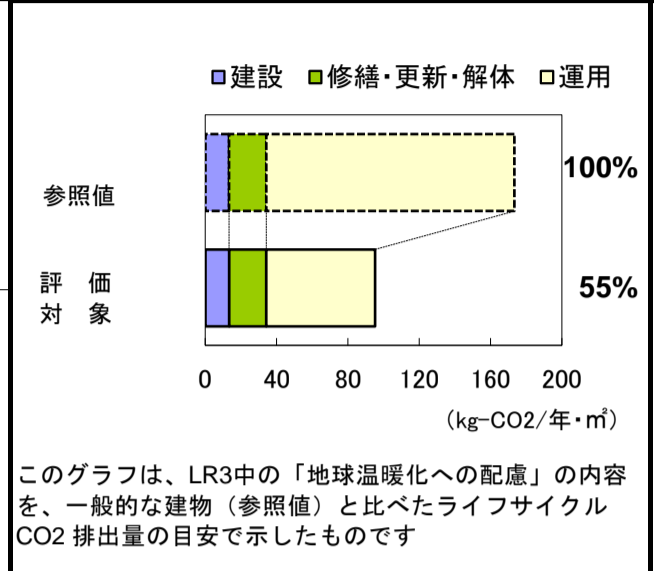
2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)



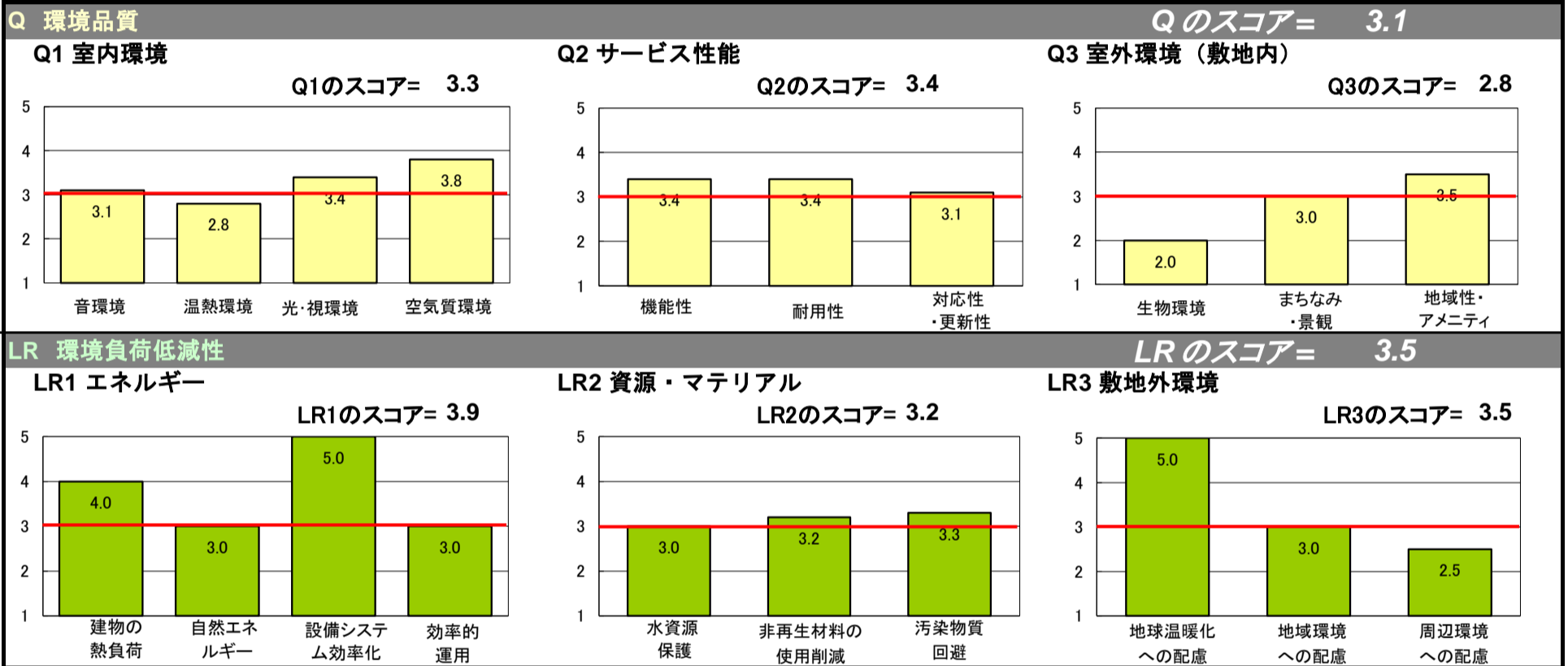
2-2 大項目の評価 (レーダーチャート)



2-3 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)



2-4 中項目の評価 (バーチャート)



2-5 設計上の配慮事項

総合 この建築物に收容される特別養護老人ホーム(在来型60床・ユニット型40床)・ショートステイ(20床)・デイサービスセンター(定員40名)各々が、機能的に運用されるよう総合的に取り組んだ。		その他 外観の形状・色彩と質感(磁器質タイル貼)を落ち着いたものとし、周囲の都市景観との調和に配慮した。また1階に地域交流スペースを設置し地域のアメニティ向上に貢献するよう努めた。
Q1 室内環境 居室の窓ガラスは複層ガラスとし、採光・通風に十分な面積を確保した。また居室界壁の遮音性能を高め、静粛でやすらぎを感じられる室内環境となるよう配慮した。	Q2 サービス性能 効率的な介護サービスを実現するため機能的な平面計画となるよう心がけた。耐震性については重要度係数1.25とし、ゆとりのあるスパン・階高設定により居心地の良い空間の創出に配慮した。	Q3 室外環境 (敷地内) 居室外部に奥行2mのバルコニーを設け、中間領域の形成を図った。外構には可能な範囲で植栽帯を設け、駐車場の舗装は透水性として雨水の浸透性に配慮した。
LR1 エネルギー 屋上防水(外断熱工法)・バルコニー・庇等建築的な工夫により日射による熱負荷の抑制に努めた。省エネルギー性を配慮して設備計画を行った。	LR2 資源・マテリアル 内外装仕上材(磁器質タイル、ビニル床シート等)にリサイクル建材を採用し、仕上材・接着剤・塗料は全てF☆☆☆☆建材とした。	LR3 敷地外環境 熱負荷に対し適切な設備計画を行い、運用時のCO ₂ 削減に配慮した。屋上の空調室外機の周囲に目隠し壁(外壁同等の仕上)を設け、周囲の景観に配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される